

こたまコラム (矢作新報社への寄稿内容)

少子高齢社会を迎えた現代社会において、通勤利用者層のリタイアや高校生の減少に伴う大量集約輸送需要の減少により、全国各地で公共交通は存続の危機に瀕しています。

また、たとえ輸送需要があったとしても、バス・タクシー事業におけるドライバー不足によって、公共交通が維持できないといった課題も近年クローズアップされてまいりました。

この様に公共交通の需要面・供給面それぞれの課題が浮き彫りとなる一方、全国各地で高齢ドライバーの事故も頻発し、公共交通不足をマイカーで補う事も限界を迎えており、こうした状況下で今注目を集めているのが自動運転技術の確立であります。

愛知県ではこれらの社会情勢を受け、高齢社会や交通不便地域に対応する新サービスの創出、更には交通事故を始めとした交通課題の解決に向け、道路交通法の規制を緩和し、無人走行車両を利用した旅客サービスや無人配送サービス等を目指し、国から近未来技術実証特区「自動走行実証プロジェクト」の地域指定を受け、昨年度、豊田市の下山地区をはじめ県内15ヶ所（総延長約41km・総実走距離約2,800km）での大規模な公道を使用しての実証実験を行い、高精度3Dマップに求められる機能の確認、自動走行システムに関するノウハウの蓄積や技術の底上げに繋げる事が出来ました。

こうした事から、今年度は最新の技術開発動向を踏まえ、国の規制緩和の動きに連動して、更に技術を高度化させた遠隔型自動運転システム（運転席は無人）などを活用した実証実験事業を、豊田市をはじめ県内10市町において全国に先駆けて開始する事が決定しましたので、この実証実験を通じて、自動走行が早期に実現する事を期待しております。



愛知県議会議員

こたま よしかず

樹神 義和 